

第 1 回伸木会の概要報告

日時：2006 年 11 月 9 日（木）～10 日（金）

場所：岐阜県立森林文化アカデミー

参加者（所属）：順不同・敬称略

青木謙治（森林総合研究所）	森 拓郎（京都大学生存圏研究所）
野田康信（北海道立林産試験場）	中川貴文（建築研究所）
竹村雅行（日本建築専門学校）	小原勝彦（岐阜県立森林文化アカデミー）
瀧野敦夫（大阪大学工学部）	清水秀丸（防災科学研究所 E-ディフェンス）
河本和義（NPO 法人 WOOD AC）	今西 亨（NPO 法人 WOOD AC）

配付資料：（[] は提供者）

- 資料 1-1 伸木会メンバー（2006.11.9 現在） [青木]
- 資料 1-2 木質構造関係学協会、国際学会など [青木]
- 資料 1-3 日本建築学会：木質構造関係委員会一覧 [青木]
- 資料 1-4 平成 18 年度競争的資金募集情報 [田中圭（大分大）]
- 資料 1-5 第 1 回伸木会スケジュール案 [小原]
- 資料 1-6 恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区の紹介 [小原]

議事録：主な内容、発言等を箇条書きにしました。

1．伸木会メンバーの確認

- ・発足準備会時（2006.9.6）からの更新状況を説明した。数名書き加えているが、ほとんど変化無し。名前は挙げているものの、まだ連絡していない人も多数いる。そういう人も含め、今後どのようにメンバーを増やしていくか。
- ・無理に増やす必要はない。参加したいという希望があればメンバーに加えるという程度でよいのでは。
- ・木質構造に限定せず、材料や工法、流通など、木質構造に関連する分野の人にも加わってもらった方がお互いに勉強になる。
- ・企業で研究・開発部門にいる人をもう少し増やせないか。
- ・まだ名簿を見ただけでは誰がどんな研究をやっているのかが分からない。年度末あたりに、今年度やった研究・実験などを A4 用紙 1 枚にまとめてみると、誰がどこで何をやっているのかがわかって良いのでは。文章よりも図や写真を中心にすれば手間もかからないだろう。
- ・同様に、どこの機関にどのような試験機、設備があるのかが知りたい。それによって共同研究が始まる可能性もある。名簿ファイルにそのような情報を書き加えられないか。
- ・伸木会のクローズドな HP を作って、メンバーの自己紹介や所有設備などが自由に見られるとありがたい。誰か得意な人はいるだろうか。

2．木質構造関係学協会・国際学会等の紹介と情報提供

- ・知っている範囲でリストアップしてみた。現在の伸木会メンバーは、建築学会が最も多くの方が会員になっていると思われる。林産系の方は木材学会にも入っているだろう。
- ・建築学会の大きな役割の一つとして、委員会活動を通して研究成果を書籍にまとめ、世の中に提供することがあげられるが、木材学会はそのような活動が盛んではない。それよりも論文誌

の価値を高めることに一生懸命に見える。

- ・ 木材学会の強度・木質構造研究会では、来年3月に「木質構造研究の現状と課題 Part.3」と題して、名古屋でシンポジウムを開催する。伸木会メンバーも興味のある人が多いのでは？基本的には学会会員でないと出席できないはずだが、非会員の伸木会メンバーでも参加できるかどうか聞いてみる。
- ・ 建築系の方は地震工学会に入っている人も多いか？
- ・ 土木学会には木橋を専門に研究する委員会がある。建築の世界とはまた違った考え方も。
- ・ 材料学会の中に木質材料研究会？という研究会組織がある。かなりマニアックな研究も。
- ・ 木材加工技術協会は、学術団体と言うより業界団体的な色彩が強いのか？各種部会活動が盛んで、様々な講習会も開催される。
- ・ 木材保存協会は、耐蟻性・耐候性など、木材・木質材料の耐久性を専門に扱う協会。防腐剤メーカーなども多数参加している。
- ・ 生理人類学会には、居住性の中でも木材と人間の感性との関係を扱う部門がある。
- ・ 森林学会には、木材の流通や経済的な話ができる分野がある。本来は木材学会の中にも流通を扱う部門があるべきだが、現状は全くないので、森林学会で発表しているようだ。
- ・ 木の建築フォーラムは、耐力壁ジャパンカップ、木の建築賞、各種講習会など、幅広い活動をしている。個人の建築士や地方の工務店などの会員が多く、伝統構法好きが多い。
- ・ 木質構造研究会は、住宅メーカー、建材メーカーを中心に発足した現代の木質構造を扱う研究会。年3回の講演会と1回の技術発表会。
- ・ WCTE は木質構造に関する唯一の国際学会。次回は宮崎開催なので、皆さん積極的に参加しましょう。
- ・ WCEE の次回大会は 2008.10 に北京、IAWPS も 2007 年に北京で開催する。
- ・ IAEE は国際地震工学会の略称。
- ・ RILEM や CIB は建築研究所内にそれぞれの連絡会があり、最先端の情報を得られる場となっている。会員登録した専門家しか参加できないが、最新の研究成果や、各国の基準関係の情報が入手できるため、その Proceeding は結構重要。
- ・ その他に AESE(Advances in Experimental Structural Engineering)や CAEE(The Canadian Association for Earthquake Engineering)等も。

3 . 日本建築学会:木質構造関係委員会について

- ・ 建築学会には様々な委員会があるが、木質構造に関しては、構造委員会の下に木質構造運営委員会があり、その下に各種小委員会、WG がある。委員会の構成メンバーは基本的に東京近郊の人が多い。
- ・ 小委員会の活動内容を見ていくと、現在の木質構造研究がどの方向に進んでいこうとしているのかが見えてくるので、その辺から研究テーマを考えてみるのも面白い。
- ・ 大きく分けると、現在の方向性としては、許容応力度設計から終局耐力設計？への転換を図ろうとしている(2)の小委員会、動的性能を基にした新たな耐震設計法の導入を図ろうとしている(3)の委員会、という二つが大きな流れか？
- ・ それ以外に、伝統構法、教育プログラム、接合部設計法、耐力壁構造など、木質構造を取り巻く重要なテーマについて委員会で検討している。

4．競争的資金について

- ・大分大の田中圭氏より資料を頂いた。今後の参考にして下さい。
- ・いずれ、伸木会メンバー同士で協力体制を取って資金獲得をする動きも出てくるでしょう。

5．その他

- ・今後は、可能であれば年に数回の伸木会を開き、その時に参加できる人の誰かに、研究内容の紹介や現在行っている仕事の紹介等をしてもらった方がよい。
- ・岐阜県立森林文化アカデミー、京都大学生存圏研究所はいつでも開催可能である（宿泊も可能）。森林総研や秋田、北海道、九州などでは開催できないか？ 来年9月の木材加工協会年次大会に合わせて旭川でやるのも良いかも？
- ・毎回参加するのは難しくても、その時その時で都合の付く人で集まってやっていくだけでも良いのではないかと。そして、年に1回は建築学会など多くの人が集まる時に顔合わせの意味も含めて宴会等を開くという形式はどうか。
- ・とりあえず次回予定としては、来年3月の「日本木材学会：強度・木質構造研究会」に合わせて伸木会メンバーも集まれるよう、主催団体幹事をお願いしてみる。

なお、1日目は岐阜県立森林文化アカデミーの施設見学、実験見学も行いました（写真1,2）。また、2日目は恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区に行き、江戸時代から続く古い町並みを見学（写真3,4）。昼食後に現地解散となりました。今後も、可能であればこのような見学会も企画したいと思います。

（文責：青木謙治）



写真1 アトリエ棟の外観



写真2 森の工房



写真3 岩村町の町並み



写真4 参加者の様子